



個人研究主題

グローバル社会に生きてはたらく創造的対話を取り入れた授業づくり
—造形的な見方・考え方を働かせた「問い」と目標のリフレーミング—

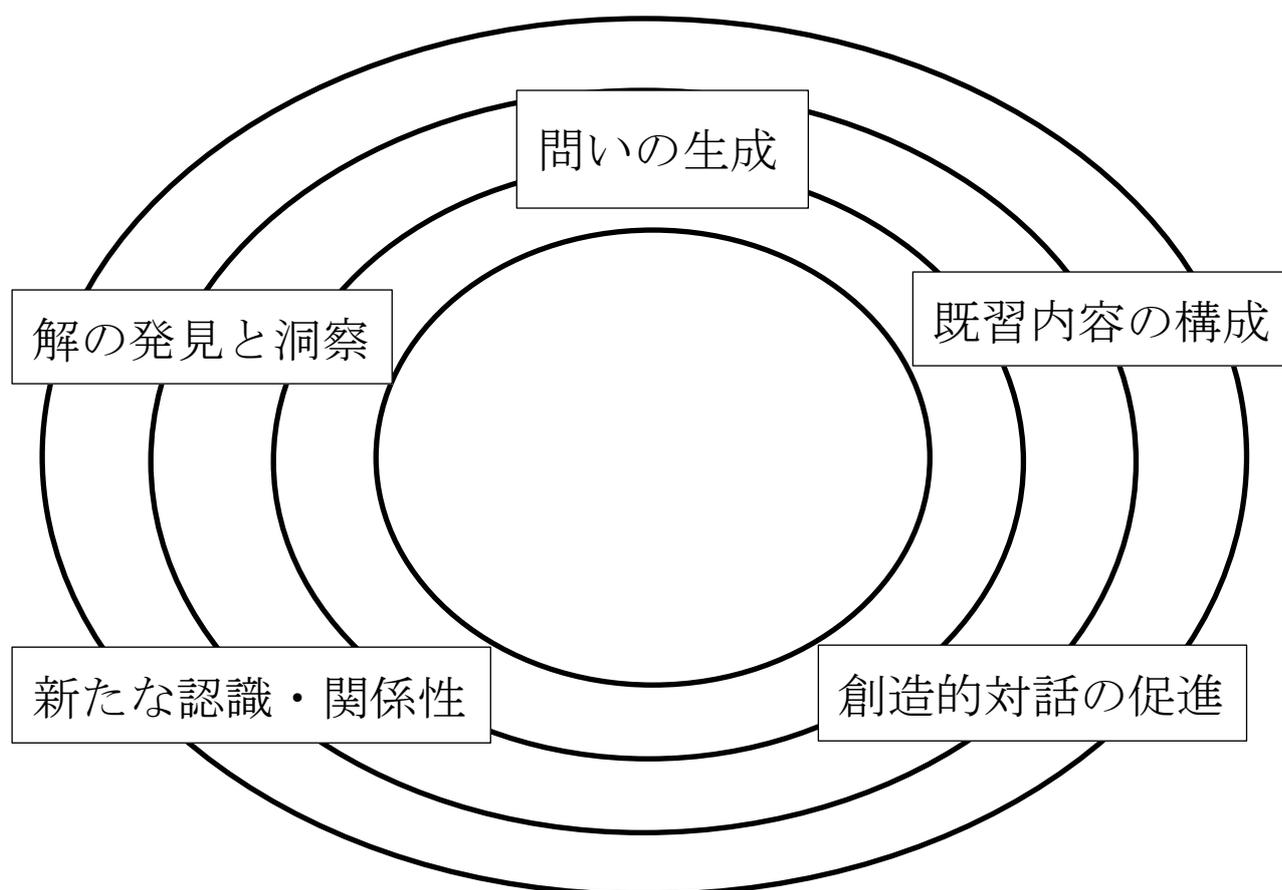
西田 諭史

研究の要旨

中学校美術科は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する教科である。これまで、豊かに発想し構想を練り、美術の見方・考え方を深めることのできる生徒を育てていくことを目的として授業づくりを行ってきた。ルーブリック評価表を最初に提示することで、身に付けさせたい力の明確化・支援の具体化をして、自分がどのような学びをすべきかを意識しながら学習する意味や価値を見いだせるようにしてきた。引き続き、ルーブリック評価表を取り入れた指導と評価の一体化を進めていく。

本研究では、課題からみえてくる自分なりの主題を表現するための「問い」を設定し、創造的対話を通して作品の表現を深めさせていきたい。まず課題から主題となる自分なりのテーマを設定し、達成するために必要な既習内容をどのように組み合わせて構成すればよいかを考え、検証していく。検証結果をもとに、素材や発想内容に改めて向き合ったり、周囲とより表現豊かにするためにどうすればよいかと交流を行ったりすることで、自分の目指す目標をリフレーミングする。表現を表面的なものから深められるように授業を構成していきたい。また、その題材で気づいたことを次の題材の問いにつながるように設定していく。

■キーワード 創造的対話, 造形的な見方・考え方, リフレーミング



美術科学習指導案

令和3(2021)年11月4日(木) 第3校時
第2学年C組 美術室
授業者 教諭 西田 論史

1. 題材名

「美を身近にするために」 (B鑑賞イ(ア)・共通事項ア)

2. 題材設定の理由

本題材では、身の回りにある何気ない自然や風景・ものを媒介に、美術の必要性を改めて考えさせることに重点を置いている。今まで美術の授業で学習してきたことが、普段の生活の中でどのように生きているのか。どこに、どのように美しいと感じるのか。学校の中にあるものをタブレットのカメラ機能で撮影した写真から、様々な視点で分析し、その要素を探る。そこから美を身近にするために自分が必要なことやより深めていくために何が大切なのか、自ら課題を設定して、解決していく力を身につけさせたい。今後の作品制作や鑑賞、また今後の人生を豊かなものにしていくための礎となるような価値観を自分たちの力で生み出す取り組みにしたい。

中学生になり、今までデッサン・水彩画・デザイン・立体制作・色の学習・モダンテクニック・遠近法など、表現活動に必要な様々な表現方法に挑戦してきた。表現活動においては、試行錯誤できるように、課題に対して自分なりの主題を考えてから、手法や組み合わせが表現したい内容に合っているのか検証できるように試す時間を多く取り、制作を行ってきた。作品の制作をするために自分なりに表現しようと集中して取り組む生徒は多い。しかし、手先が器用な生徒は、本質に迫ることなく制作を進めてしまい、美術を苦手としている生徒は、途中で思考を中断し、作品を創ることのみに集中してしまう傾向がある。また、鑑賞活動はじっくりと時間をかけて行うことができていない。以上のことから、作品に向かい合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりなどして、作品や対象の見方や感じ方を深めることができていないのではないかと考えられる。技法を身につけたとしても、美術や美そのものが身近なものになっていないのではないかと考えられる。

まず、生徒に「美は身近なものとなっているだろうか」と問いかけをする。第一次では、様々な教科や授業内で、本年度から本格的に導入されているタブレットを使い、実際に撮影をさせて現状を把握させる。学校の中にある美しいと感じるものを撮影し、写真をPC上の四象限マトリクスに貼り付けてまとめ、自分なりに分析させる。感じたことの原因や理由についてグループで意見を出し合いながら考えさせることで、自分自身の課題を見つけ出せるようにしていきたい。そこから生まれた課題を探究していくことで、美を今まで以上に身近に感じさせ、新たな価値観を見出せるように仕掛けていく。

3. 題材の学習目標

普段の生活の中にある美しいと感じるものを撮影し、分析することで自分たちに必要な要素を明確にしたうえで、グループで交流し、調べ学習や話し合いの中から、自分なりの新たな価値観を見出すことができる。

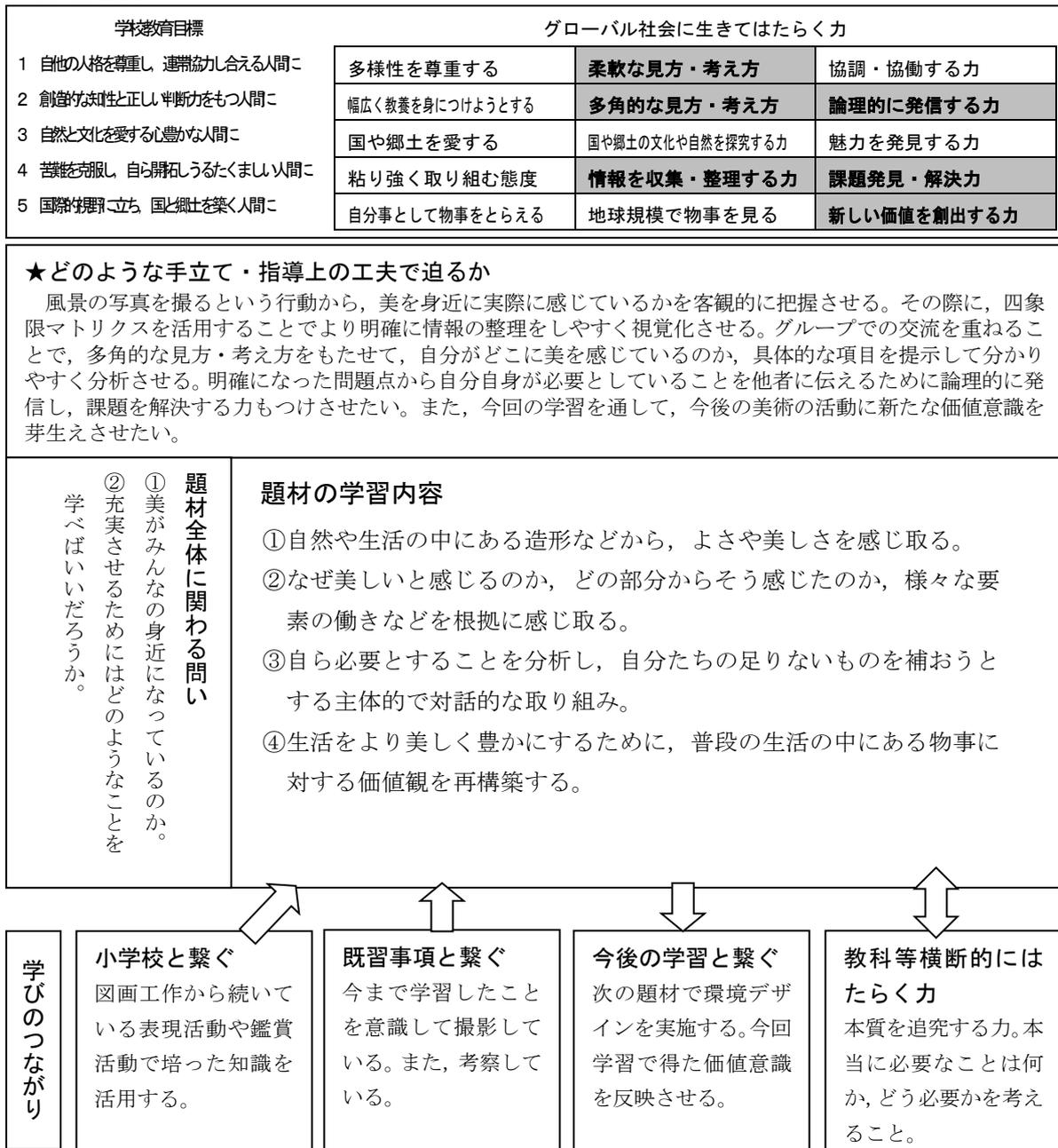
4. 題材の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①形や色彩、質感や光などの性質や、それらが自分の価値意識にもたらす効果などを理解している。	②身近な生活の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取ろうとしている。 ③今後の表現活動や鑑賞、人生を豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。	④美術の創造的活動の喜びを味わい主体的に美について探究し、自分なりの答えにたどり着けるよう試行錯誤しながら学習活動に取り組もうとしている。

5. 題材の学習計画 (全6時間)

時程	学習活動	評価の観点		
		知	思	学
第一次	学校の中の美しいものの撮影—タブレットの活用— (1時間)		◎	◎
第二次	四象限にまとめ、グループで話し合う—分析と交流— (2/2時間 本時)		◎	◎
第三次	美しく感じた要素についての調べ学習とまとめ—身近にする探究— (2時間)	◎	◎	◎
第四次	自分たちの考えを発表する—プレゼンテーション— (1時間)			◎

6. 単元構想図



7. 本時の目標および探究的学習活動の見どころ

目標：②なぜ美しいと感じるのか、どの部分からそう感じたのか、様々な要素の働きなどを根拠に感じ取る。
 探究的学習活動の見どころ：自分で見つけたものを整理・分析することで課題を発見すること。



8. 本時の学習過程 (第二次 2 時間目)

	学習内容・活動	○指導 ◆評価 ★主体的に課題を見いだす方策
導 入	1. 本時の目標を確認する。	○前時にまとめた内容から本時に行う内容について説明する。 ○改めて「美が身近なものとなっているのか」という問いかけをする。
	学習課題 理由や原因を探り、身近にするために必要なことを考察する。	
展 開	2. 前時にまとめた四象限の確認 ・ PowerPointにまとめた写真 ・ ワークシートにまとめた記述	○写真を四象限にまとめたものとワークシートに記述した内容から、どういったところに「美しいな・素晴らしいな」と感じたのかを確認させる。
	3. 四象限でまとめた内容から、どこに美を感じているのかを探る。 併せて、上記の結果から何%ぐらい「美が身近なもの」となっているか推測する。	○直感的・意図的・既習内容を意識した・していないなどで分類をしているが、4つの視点を根拠に自分がどこに「美しい・素晴らしい」と感じているのか、具体的な例を挙げて理由を探らせる。 ○具体的な数値として表してみるとどうなるのか推測させる。 ★「形・色彩・配色・素材・質感・光・構成・デザイン・空間・その他」と項目を提示して、より明確に具体的に記述できるようにする。 ◆規準②(ワークシート) 【思考力・判断力・表現力】
	4. 3で記述した内容から「より深めるために必要なこと・充実させるために必要なこと」を考察する。	○美が身近に感じるパーセンテージが100%なら、より深めるためには何が必要か、また100%でないなら、充実させるために何が必要なのかを考えさせる。 ○今後の調べ学習の仮説となるように、考察させる。 ★数値化したものをもとに考えることで、自分なりにどのくらい学習すべきなのかをより明確にさせる。
	5. もっと美を身近にするためにどんなことを学ばばよいか、グループで話し合う。	○4で考察した内容を具体的に授業で実現していくためにどんなことをしていけば良いのか、解決策を話し合わせる。 ○鑑賞をするなら、具体的にどんな作品をどのような視点で鑑賞すると良いのか。比較をするべきなのか、一つのをじっくり鑑賞すべきなのかなど、今後の調べ学習をしていくきっかけ作りとなるように促す。 また、知識や技能を習得するだけで、解決するのかなども考えさせたい。 ★机間支援をする中で、各グループの核となりえるポイントに着目させられるよう声かけを行う。 ◆規準④(ワークシート・交流の観察) 【主体的に学習に取り組む態度】
	6. 学級全体で共有する。	○5で話し合った内容を発表することで、全体で共有させる。 ★本時で話し合った内容を、全体で交流することで、新しい発想に変わるきっかけを与える。
	ま と め	7. 本時を振り返り、次時からの連絡を聞く。

9. ルーブリック

	S	A	B	C
思考・判断 ・表現	身近な生活の中に見られる造形的な美しさからどのような視点で美を感じ取っているのかを四象限にまとめた内容を根拠として具体的に書いている。	身近な生活の中に見られる造形的な美しさからどのような視点で美を感じ取っているのかを具体的に書いている。	身近な生活の中に見られる美しさについて書いている。または、断片的に書いている。	身近な生活の中に見られる美しさについて触れずに書いている。
主体的に学習に取り組む態度	美術の創造的活動の喜びを味わい主体的に美を身近にするための話し合いを行い、誰もが100%にたどり着くためのキーワードを出している。	美術の創造的活動の喜びを味わい主体的に美を身近にするための話し合いを行い、自分なりに答えにたどり着くためのキーワードを出している。	美を身近にするための話し合いに参加し、自分なりにキーワードをワークシートに書き出している。	美を身近にするための話し合いに参加している。